生誕120年

宮脇綾子の芸術

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

Miyawaki Ayako Retrospective: I saw, I cut, I applied

見た、切った、貼った

2025
1.25 sat.
↓
3.16 sun.

休館日――月曜日（ただし2月24日、3月10日は開館）、2月25日（火）
開館時間――10時から18時（金曜日10時から20時）＊入館は閉館30分前まで
主催――東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）
特別協力――豊田市美術館　協賛――T&D保険グループ

40歳になってから創作活動を始めた宮脇綾子（1905〜1995）は、アプリケ作家として知られています。確かに彼女はアプリケの手法で制作しましたが、その作品はアプリケや手芸といった枠には収まりきらない豊かな表現を見せています。アプリケの可能性を無限大に拡張したと言い換えることもできるでしょう。

Miyawaki Ayako Retrospective: I saw, I cut, I applied

宮脇綾子の芸術

見た、切った、貼った

モティーフは野菜や魚など、宮脇が主婦として毎日目にしていたもの。それらを徹底的に観察し、時に割って断面をさらし、分解して構造を確かめるところから彼女の制作は始まります。収集した膨大な布の中からふさわしい1枚を選び出し、たゆまぬ研究の果てに生み出された作品は、造形的に優れているだけでなく、高いデザイン性と繊細な色彩感覚に支えられ、いのちの輝きを見事に表現しているのです。

本展では、宮脇綾子をひとりの優れた造形作家として捉え、その作品を造形的な特徴に基づいて分類・構成していきます。美術史のことばを使って分析することで、この類稀な才能をもったアーティストの芸術に、新たな光を当てようとする試みです。

表白菜｜1975年、豊田市美術館｜❶鴨（背）｜1953年、豊田市美術館｜❷ふきのとうの花｜1979年、豊田市美術館｜❸長茄子｜1964年、豊田市美術館｜❹いい形・いい布｜1986年、豊田市美術館｜

❶

❸

❷

宮脇綾子 3つのこだわり

断面 宮脇は断面が大好きだ。果物でも野菜でも2つに割らないと気がすまない。それは断面の美しさを知っているからだが、根底には構造を知りたいという探究心がある。この探究心が作品に写実性を与えている。

模様 膨大な布を収集した宮脇は、布の素材と同時に柄や模様にも魅了されていた。ただの縞柄が筍の皮に変身したかと思えば、オコゼの背中で龍が跳ねる。宮脇は模様を生かし、模様で遊ぶ方法をよく知っていた。

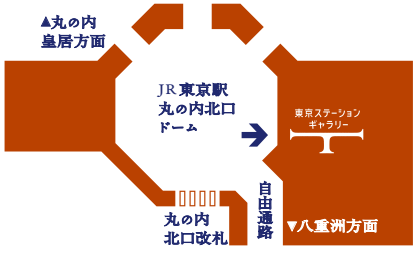
発芽 流しの下でうっかり芽を出してしまったサツマイモを宮脇は慈しんで作品にした。「うっかり」というのは言い訳で、わざと放置したのかもしれない。生命力を感じさせる芽や根は宮脇の重要なテーマだった。

❹

2025 1.25 sat. → 3.16 sun.

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

JR東京駅 丸の内北口 改札前
tel.03-3212-2485
https://www.ejrcf.or.jp/gallery/
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-9-1



入館料	
	一般 1,300（1,100）円
	高校・大学生 1,100（900）円
	中学生以下無料

＊（　）内は前売料金［12月1日→1月24日オンラインチケットで販売］＊障がい者手帳等持参の方は200円引き（介添者1名は無料）＊オンラインwww.e-tix.jp/ejrcf_gallery/（前売券・当日券）または当館1階入口（当日券）でチケット販売 ＊都合により開催内容が変更になる場合があります

次回展――タピオ・ヴィルカラ 世界の果て［仮称］
2025年4月5日［土］〜6月15日［日］

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

休館日――月曜日（ただし2月24日、3月10日は開館）、2月25日（火）
開館時間――10時から18時（金曜日10時から20時）＊入館は閉館30分前まで
主催――東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）
特別協力――豊田市美術館　協賛――T&D保険グループ

生誕120年

宮脇綾子の芸術

Miyawaki Ayako Retrospective:
I saw, I cut, I applied

見た、切った、貼った

2025
1.25 sat.
3.16 sun.

40歳になってから創作活動を始めた宮脇綾子（1905〜1995）は、アプリケ作家として知られています。確かに彼女はアプリケの手法で制作しましたが、その作品はアプリケや手芸といった枠には収まりきらない豊かな表現を見せています。アプリケの可能性を無限大に拡張したと言い換えることもできるでしょう。

Miyawaki Ayako Retrospective: I saw, I cut, I applied

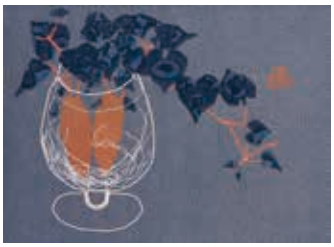
モティーフは野菜や魚など、宮脇が主婦として毎日目にしていたもの。それらを徹底的に観察し、時に割って断面をさらし、分解して構造を確かめるところから彼女の制作は始まります。収集した膨大な布の中からふさわしい1枚を選び出し、たゆまぬ研究の果てに生み出された作品は、造形的に優れているだけでなく、高いデザイン性と繊細な色彩感覚に支えられ、いのちの輝きを見事に表現しているのです。

本展では、宮脇綾子をひとりの優れた造形作家として捉え、その作品を造形的な特徴に基づいて分類・構成していきます。美術史のことばを使って分析することで、この類稀な才能をもったアーティストの芸術に、新たな光を当てようとする試みです。

❶

宮脇綾子の芸術

見た、切った、貼った



❸

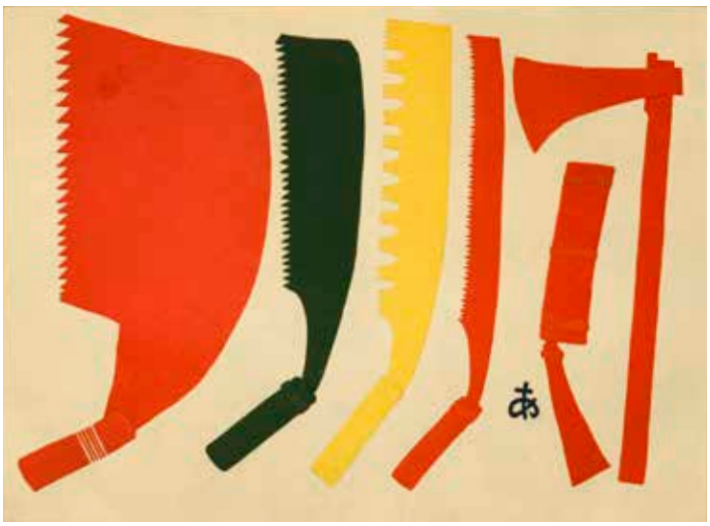
❷

宮脇綾子 3つのこだわり

断面 宮脇は断面が大好きだ。果物でも野菜でも2つに割らないと気がすまない。それは断面の美しさを知っているからだが、根底には構造を知りたいという探究心がある。この探究心が作品に写実性を与えている。

模様 膨大な布を収集した宮脇は、布の素材と同時に柄や模様にも魅了されていた。ただの縞柄が筍の皮に変身したかと思えば、オコゼの背中で龍が跳ねる。宮脇は模様を生かし、模様で遊ぶ方法をよく知っていた。

発芽 流しの下でうっかり芽を出してしまったサツマイモを宮脇は慈しんで作品にした。「うっかり」というのは言い訳で、わざと放置したのかもしれない。生命力を感じさせる芽や根は宮脇の重要なテーマだった。



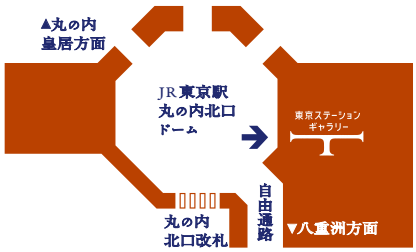
❹

2025 1・25 sat. → 3・16 sun.

表「はりえ日記」第9巻より｜1974年、豊田市美術館｜❶あんこう｜制作年不詳、個人蔵｜❷切った玉ねぎ｜1965年、豊田市美術館｜❸芽の出たさつまいも｜1987年、豊田市美術館｜❹そまの道具｜1969年、個人蔵｜

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

JR東京駅 丸の内北口 改札前
tel.03-3212-2485
https://www.ejrcf.or.jp/gallery/
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-9-1



入館料	
	一般 1,300（1,100）円
	高校・大学生 1,100（900）円
	中学生以下無料

＊（　）内は前売料金［12月1日→1月24日オンラインチケットで販売］＊障がい者手帳等持参の方は200円引き（介添者1名は無料）＊オンラインwww.e-tix.jp/ejrcf_gallery/（前売券・当日券）または当館1階入口（当日券）でチケット販売 ＊都合により開催内容が変更になる場合があります

次回展――タピオ・ヴィルカラ 世界の果て［仮称］
2025年4月5日［土］〜6月15日［日］

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

生誕120年

宮脇綾子の芸術

見た、切った、貼った

Miyawaki Ayako Retrospective: I saw, I cut, I applied

2025
1・25 sat.
3・16 sun.

休館日――月曜日（ただし2月24日、3月10日は開館）、2月25日（火）
開館時間――10時から18時（金曜日10時から20時）＊入館は閉館30分前まで
主催――東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）
特別協力――豊田市美術館　協賛――T&D保険グループ

宮脇綾子の芸術

切った、貼った

見た、

Miyawaki Ayako Retrospective: I saw, I cut, I applied

2025
1・25 sat. → 3・16 sun.

40歳になってから創作活動を始めた宮脇綾子（1905～1995）は、アプリケ作家として知られています。確かに彼女はアプリケの手法で制作しましたが、その作品はアプリケや手芸といった枠には収まりきらない豊かな表現を見せています。アプリケの可能性を無限大に拡張したと言い換えることもできるでしょう。

モティーフは野菜や魚など、宮脇が主婦として毎日目にしていたもの。それらを徹底的に観察し、時に割って断面をさらし、分解して構造を確かめるところから彼女の制作は始まります。収集した膨大な布の中からふさわしい1枚を選び出し、たゆまぬ研究の果てに生み出された作品は、造形的に優れているだけでなく、高いデザイン性と繊細な色彩感覚に支えられ、いのちの輝きを見事に表現しているのです。

本展では、宮脇綾子をひとりの優れた造形作家として捉え、その作品を造形的な特徴に基づいて分類・構成していきます。美術史のことばを使って分析することで、この類稀な才能をもったアーティストの芸術に、新たな光を当てようとする試みです。

❶「はりえ日記」第13巻より｜1974年、豊田市美術館

❸

❷

宮脇綾子 3つのこだわり

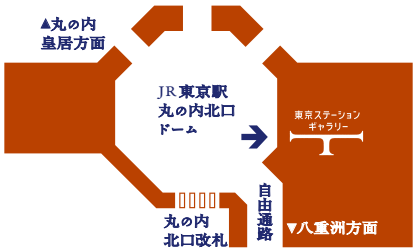
断面 宮脇は断面が大好きだ。果物でも野菜でも2つに割らないと気がすまない。それは断面の美しさを知っているからだが、根底には構造を知りたいという探究心がある。この探究心が作品に写実性を与えている。

模様 膨大な布を収集した宮脇は、布の素材と同時に柄や模様にも魅了されていた。ただの縞柄が筒の皮に変身したかと思えば、オコゼの背中で龍が跳ねる。宮脇は模様を生かし、模様で遊ぶ方法をよく知っていた。

発芽 流しの下でうっかり芽を出してしまったサツマイモを宮脇は慈しんで作品にした。「うっかり」というのは言い訳で、わざと放置したのかもしれない。生命力を感じさせる芽や根は宮脇の重要なテーマだった。

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

JR東京駅 丸の内北口 改札前
tel.03-3212-2485
https://www.ejrcf.or.jp/gallery/
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-9-1



入館料
一般 1,300（1,100）円
高校・大学生 1,100（900）円
中学生以下無料

＊（ ）内は前売料金［12月1日→1月24日オンラインチケットで販売］＊障がい者手帳等持参の方は200円引き（介添者1名は無料）＊オンライン www.e-tix.jp/ejrcf_gallery/（前売券・当日券）または当館1階入口（当日券）でチケット販売 ＊都合により開催内容が変更になる場合があります

次回展――タピオ・ヴィルカラ 世界の果て［仮称］
2025年4月5日［土］～6月15日［日］

❹

❶さしみを取ったあとのかれい｜1970年、豊田市美術館｜❷かぼちゃの断面（濃緑）｜1974年、知多市歴史民俗博物館｜❸鮭の切り身とくわい｜1980年、個人蔵｜❹床山さんの櫛｜制作年不詳、個人蔵